

クリーンフィックス®15471Rの特長



👔 "真っ暗"でも有害物質を減少!

※UVがエネルギー源の中心となる光触媒と違い、全ての光や熱をエネルギーにして作用し続けます。

- ② 安全でセルフ塗布も可能 (約5cc/ ㎡)
- 繊維等の素材を傷めにくい ※10回以上洗濯しても落ちない「強力固着力」。
- 半永久的な作用 ※定期的なメンテナンスは必要です。
- **5** モノに塗って乾かせば有害物質を継続的に減少 ※全ての有害物質を対象とするものではありません。

クリーンフィックスによる有害物質・分解作用イメージ

POINT

分子中の共有電子(留め金の役目)を奪ってバラバラにする



固着したクリーンフィックスのエネルギー源は

全ての光・全ての熱

常時安定供給•常時作用

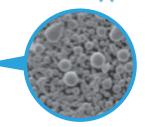
※光触媒のエネルギー源は紫外線が中心で、 供給が不安定。

クリーンフィックスの作用は

接触してくる有害物質の 共有電子を奪って分解を継続

するという単純作業のみ

ウイルス接触・分解イメージ



主成分である特殊な酸化チタン が特殊なケイ素(シリコン)を "バインダー"として、強力に固着 している様子を拡大したイメージ。

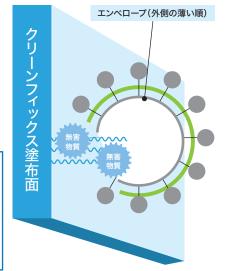
強力固着イメージ

右図のような外側に薄い膜を持つ「エンベロープタイプ」の ウイルスの場合、エンベロープがクリーンフィックスの塗布 面に接触すると、その部分が分解されて壊れ、ウイルスは 不活性化してしまう。



※ウイルスは生物ではないので、"生死"の表現は使えない。ちなみに菌は生物。

→タイヤがパンクして、ウイルスという車が走れなくなるイメージ



クリーンフィックス塗布面 (塗布 ➡ 乾燥 ➡ 強力固

対

部分(ドアノブ・手すり・壁・カ

ーテン・マスクなど)

様々な菌・ウイルスに作用

一般財団法人ボーケン品質評価機構

有害物質	試料提出日	試験実施日	時間•環境	殺菌活性値	静菌活性値
細菌 M	2015年7月22日	7月30日	18時間 (洗濯10回後)	3.2(99.9%以上)	5.1 (99.999%以上)

一般財団法人ニッセンケン品質評価センター

有害物質	試料提出日	試験実施日	時間•環境	抗ウイルス活性値	JIS抗ウイルス効果判定
ウイルス I	2020年5月8日	9月30日	10分間(暗所)	3.6(99.9%以上)	十分な効果あり (JISの最高評価)

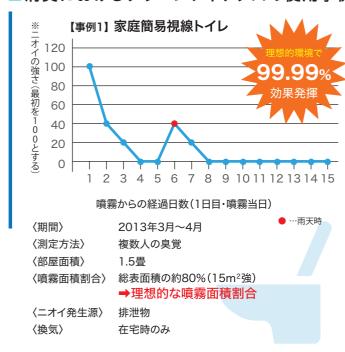
一般財団法人日本繊維製品品質技術センター

有害物質	試料提出日	試験実施日	時間·環境	抗ウイルス活性値	JIS抗ウイルス効果判定
ウイルス S	2020年9月8日	11月30日	2時間(暗所)	3.1 (99.9%以上)	十分な効果あり (JISの最高評価)

2

分解困難なニオイ物質にも作用

■消臭におけるクリーンフィックスの使用事例(発売元自社試験)





3

確かな安全性

■成分:酸化チタン・ケイ素化合物・銀・アルコール・水(弱アルカリ性)

経口毒性(LD50)	5000mg/kg	遺伝子への影響	異常なし
剖検所見	異常なし(雌マウス)	吸入時の影響	知見なし 成分から考えて無害
皮膚刺激性	異常なし(ウサギ)		

確実な塗布施工を行うことでより効果を発揮

準備するもの

200cc入りのスプレーボトル



容量が大きいと1回の噴射量が多くなり、過剰塗布の原因になるため、200cc入りボトルをお薦めします。

ゴム手袋又はビニル手袋



本製品にはイソプロピルアルコール(3%未満)が含まれています。アルコールアレルギーの方がおられる可能性がありますので、必ず装着してください。

綿白手袋



綿白手袋は繊維の編み目が細かく、塗り跡(ライン)を最小限に抑えられます。また、水分量が確認しやすく、手の平や指先で対象物に沿って容易に施工ができます。

マスク

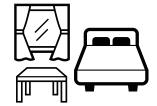


スプレーボトルで噴射すると空気中 に粒子が舞います。成分は安全です が、粒子を吸い込まないよう必ず装 着してください。

施工手順

1

施工箇所を決める



可能な限り広い面積を、対象としてください。

※効果は面積に比例します。

2



汚れを取る

対象部分の汚れやホコリを濡れ雑巾でしっかり拭き取り、完全に乾かしてください。対象部分に汚れ等が付着したまま施工すると、付着した汚れ等の上に本製品が固着することになり、対象部分から汚れ等が取れると、その外側に固着した本製品も一緒に取れてしまいます。

3

塗布する



消臭なら隙間なく(30~50cc/㎡程度)、抗菌・抗ウイルスなら布・綿白手袋を利用して、着色・塗り跡に注意しながら、しっとり湿る程度に(しっかりと絞った濡れ雑巾くらいの水分量で)隙間なく薄く伸ばして塗布します。

※着色時は水拭きしてください。装着した綿白手袋の手の 平がしっとり湿る程度の水分量で小学校の教室にある机 1台の上が十分施工できます。

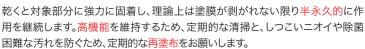
- ●手袋に本製品を過剰噴射した際は、左右の手を擦り合わせ、水分量を均一 にしてください。
- ●対象部分に過剰塗布した際は、水分量の少ない方の手袋で隙間なく薄く 均一に伸ばしてください。
- ●これで対処が不可能な際は、濡れた雑巾で拭き取り、乾かしてから再塗布 してください。
- ●対象部分にスプレーボトルで直接噴射すると、過剰塗布による液だれ、着色、 塗り跡が生じる原因になるため、直接噴射はしないでください。
- ●対象部分の素材にもよりますが、過剰塗布したまま乾燥すると、濡れ雑巾で拭き取っても取れにくいことがあります。

主に次のような素材(透明度の高いもの、光沢のあるもの、表面が化粧加工してあるもの等)は、過剰塗布による塗り跡が生じた場合、濡れ雑巾で拭いても取れない可能性がありますので、指定業者による噴霧器施工をお薦めします。 例 鏡、ガラス、アクリル板、金属、漆塗りのもの ほか

Δ

完全に**乾**かす

塗布した後、完全に乾かしてください。



- ※定期的な清掃の際、水、アルコール、次亜塩素酸水の使用は問題ありませんが、 強アルカリ性のものは使用しないでください。
- ※再塗布は、接触が頻繁なドアノブ、手すり、机等は1カ月毎、頻繁でない箇所は3 カ月毎が理想です。
- ※本製品に含まれる成分特有のニオイがあるため、窓を開けるなど換気をしてください。乾くとニオイはなくなります。

5

換気する



空気の対流により有害物質が塗布した部分に接触するよう適度に換気をしてください。



- ●他の薬品等と混合しないでください。
- ●本製品を希釈しないでください。
- ●本製品の特性上、着色、水滴、塗り跡が残る可能性があるため、あらかじめ目立たない所で確認してからご使用ください。

とくに白色の漆喰、塗装、繊維等は着色(淡黄色)にご注意ください。

使用上の注意

- ●用途外には使わないでください。
- ●幼児や認知症の方などの手の届く所に置かないでください。
- ●吸い込んだり目に入らないよう使用時は保護のため、マスク、眼鏡、ゴム手袋を着用してください。
- ●使用後は手を流水でよく洗ってください。
- ●まれに有効成分が沈殿する場合がありますので、使用前によく振ってからご使用ください。
- ●タンクや噴霧装置などに移す場合は気泡が噛みこまない程度に撹拌してください。
- ●直射日光を避け、冷暗所(30℃以下)に保管してください。
- ●保管環境や時間の経過によりニオイや色(淡黄色から透明に退色)が変化し、又は酸素の発生によりボトルが膨張する ことがありますが、安全性、品質、作用には影響を及ぼしません。
- ●凍結すると品質に影響する場合があるため、冬季など氷点下になる場所での保管は避けてください。

応急処置

- ●目に入った場合は流水でよく洗い流し、違和感がある場合は眼科医を受診してください。
- ●万一飲み込んだ場合は吐かずにすぐ多量の水を飲む処置をし、医師に相談してください。
- ●吸引した場合は新鮮な空気のある環境で安静にし、具合が悪くなるようでしたら医師に相談してください。
- ●皮膚に着いた場合はすぐに流水でよく洗い流してください。 ※受診時には必ず本製品を持参してください。

施工事例





日本赤十字社 姫路赤十字病院さま



世界文化遺産・国宝姫路城さま



姫路市立動物園さま

